あとがき

本ブックレットは 2014 年 10 月 24 日，豊中キャンパスで開催された「東アジア『生命健康圏』構築に向けて：大気汚染と健康問題を考える日中国際会議」（以下，国際会議と略す）の記録である。

本国際会議は,「大阪大学未来研究イニシアティブ・21 世紀課題群と中国」が主催し，大阪大学グローバルコラボレーションセンターと「大阪大学未来研究イニシアティブ・MULTUM で切り拓くオンサイトマススペクトリー」が共催するかたちで開催された。

北京の健康被害に関する調査研究に蓄積があり, 最前線で活躍する中国の研究者と大阪大学の研究者が集い，専門分野と国境を越え，具体的な取り組みや信憑性のある数々の情報やデータを通じて議論を交わすことが目的であった（詳細は巻末の「ちらし」を参照)。

本国際会議は二部構成となっている。午前の部は大阪大学の大学院生らを中心とするポスター発表である。発表者の所属は人間科学研究科，工学研究科，理学研究科，国際公共政策研究科など多岐にわたっており，合計 13 組の発表者がそれぞれの専門領域や関心から環境問題についての報告を行った。同時に分野横断型の活発な議論と交流の場も設けられ，研究と教育の一体化に向けて良い刺激となった。

午後の部では, 中国の北京大学と北京農業大学の研究者に公衆衛生学と法律学の視点から中国の大気汚染の現状についてご報告をいただいた。このあと，環境省と大阪大学の専門家・教員による発表とコメントが続いた。全体討論では，発表者と参加者によるディスカッションが行われ，分野横断型の調査研究の重要性，ならびに相互理解と信頼醸成の必要性が確認された。日中関係の冷え込むなか，中国から二名の研究者をお招きし，日中双方による研究成果の報告と研究交流によって認識の共有が図られたことは, 極めて意義深い。

今回, 学生や教職員のみならず一般市民など多くの方々のご参加をいただいた。それは，本国際会議の主題が日中両国にとって興味関心の高いトピックであり, 相互の協力関係の構築と発展をめざす人々の願いによるものであると理解できる。本国際会議はまた，文系・理系の垣根をこえた協働を企図したものでもある。私たちは，大阪大学が掲げる基本理念，とくに「総合性の強化」「対話の促進」という観点から，研究領域を跨ぐ教育・研究活動の発展に寄与したいと考えた。

世界が直面する環境問題は，地球温暖化，資源枯渇や生態的多様性の喪失をはじめ，大気・土壌・水質汚染，環境汚染，砂漠化など，枚挙に暇がない。地域に限定された環境問題もあるが，その要因の多くは越境し，被害がグローバル化している。21 世紀の今日，私たちが直面しているのはグローバル環境リスクにほかならない。ゆえに分野横断型の連携，研究体制の構築や解決策の実装化が要請されている。とは言え，現実を直視すれば，人類の知恵や最も優れた研究成果は活かされておらず，理想と現実の乖離は否めない。21 世紀の東アジアは環境問題が急速にグローバル化・深刻化している地域であるにも関わらず，研究領域や国境をまたいだ取り組みは，政治イデオロギー，国家制度，研究レベルの格差や体制の相違などによって，深刻な遅れが生じていると言わざるを得ない。

東アジアにおけるグローバルな課題, さらに生命危機と健康維持という全人類共通の課題こそが本国際会議の主題である。これを端緒として，国・地域と既存の政治的，経済的，社会的，文化的，さらには学術的な枠組みを跨いだ東アジア「生命健康圏」という概念を打ち出し，問題解決に向けた歩みを始めるための確かな第一歩とならんことを祈念する。

（思沁夫）